●「赤心」継がん
Dream 五代塾 Godaijuku Sinbun（新聞）
第１号 創刊号
発行：Dream 五代塾
吹田市千里山西 5-14-17
発行責任者：川口 建

五代友厚の生涯の志「赤心」を大切に!!
（嘘いつわりのない、ありのままの心。真心）

2021 新年より始動

私たちは、2021年1月1日より新しく「Dream五代塾」を立上げ、活動開始することにしました。

昨年の12月11日、映画「天外者」が公開され、例を見ない好評を維持しつつロングラン上映となっています。振り返れば五代塾の当初の目的は、忘れられた五代友厚を何とか世に知らしめたいという思いで事績の研究と、広報・セミナー開催などの活動をしてきました。また、それを映画制作として大きく前進・実現頂いたのが五代友厚プロジェクト代表の廣田稔氏で、これで一つの目的は達成できたと思います。このご尽力には頭が下がります。

さて、今回の「Dream五代塾」の立上げは、映画「天外者」主演の三浦春馬さんの五代友厚になりきった圧倒的な熱量と命を削って演じきった本気度に、今更ながらハット感じるものがありました。

私自身、「塾発足の原点」に立ち戻ろうと思い、慣れ親しんだ団体を出て、新しい五代塾運営の再興を考えました。

その心は、「赤心」（せきしん）という言葉です。「嘘いつわりのない、ありのままの心。真心」　五代友厚は手紙にもしばしば使っていました。

また、私たちが教えを受けた久保田彌一郎氏も常々「忠恕」（ちゅうじょ）という言葉を大切にされていました。「忠とは⬇誠実なこと、恕とは⬇思いやること、＝そこから愛が生まれる」と教えられました。

Dream 五代塾理事長
川口　建

Dream 五代塾は「赤心」の二文字を志の柱として、五代の事績とその精神を継承し、今まで以上に多くの人々に伝えていきたいと考えています。

現在は新型コロナ禍で活動が制約されますが、セミナー開催や、ゆかりの地探索などを準備し、改めてご連絡させていただきます。今後ともよろしくご指導、ご支援お願いいたします。

Dream 五代塾セミナー

第一回 Dream 五代塾セミナー
五代友厚大阪ゆかりの地探索
日時：2021年3月13日（土）
10時～12時30分
場所：北浜・天満橋・本町あたり

集合時間の10時頃は雨がパラパラと降りましたが予定通り淀屋橋に集合。出発時にもパラパラとした雨に会いましたが、おおむね良いコンデションで実施することができました。

今回は、東京・名古屋・その他遠方の方々の参加予定がありましたが、天気予報を見ながら中止のリスクを考え、参加への再考を考えてもらいましたが、その方々には結果的に申し訳ない気持ちです。次の機会にはぜひ参加いただきたいと思います。

大阪商法会議所跡前にて

さて、総勢15名で出発。大阪商法会議所跡、通商会社・為替会社跡、光世証券・銅像、大阪取引所、大阪会議開催の地跡、高麗橋、三橋楼、大阪活版所跡、大阪商工会議所・銅像、また、当時の関連施設、史跡等を紹介しました。

今回の見学地に来られたのが初めての方が多く、また、予備知識がないと見逃してしまう碑や史跡が多く、僅か5㎞弱の行程ながら多くのみるべき史跡等があるのに驚いておられました。

当日配布教材の一部

高麗橋前にて

なお、今回の様なゆかりの地探索は定期的に繰り返し実施します。また、座学でのセミナーも実施し、各ゆかりの地を詳しく知るために、時代の背景、機能、五代の未来への貢献度などを勉強する機会を企画いたします。

五代友厚の長崎の人

Dream 五代塾顧問　曾野豪夫

五代友厚の長崎時代と永見傳三郎

五代友厚が薩摩藩から選らばれて長崎海軍伝習所生として長崎の地を踏んだのは安政四年（一八五七）二月ことだった。それから慶応三年（一八六七）末に兵庫の港に着くまで二十三歳から三十三歳にかけてもっぱら長崎で過した。もっともその間、上海出張が二回、鹿児島本藩勤務、薩英戦争とその後の、ヨーロッパ出張もあったがそれでも実際の長崎滞在期間は九年間に及んだ。

藩の長崎での業務に忙しい中ではあったが、友厚二十九歳の文久三年（一八六三）六月二十二日、徳永広子（のち「みち」と名前を変えた）に庶子治子（のち松子）が生れた。

二年後の慶応元年初め、友厚が欧州視察の直前に長崎の上野彦馬写真館で撮影した侍姿の写真がある。（詳細は『歴史通』二〇一二年七月号参照）

五代才助
長崎上野彦馬写真館
慶応元年

慶応三年、勤王の大義を唱える家老小松帯刀、西郷吉之助、大久保一蔵らの一行の上洛に少し遅れて十二月二十八日、友厚は家老新納（にいろ）刑部、モンブラン伯爵などともに藩船開聞丸で兵庫に着いた。それは翌四年一月三日鳥羽伏見の戦いの六日前だった。タイミングとして友厚は軍事には直接関与しなかったが、長崎において薩摩藩上洛派遣軍のための諸物資の調達と輸送業務に力量を発揮したと思う。

長崎出発に先立ち友厚は、もし薩摩藩が幕府と開戦して負けた場合は藩主と共に海外に逃れるという事態もありうるとして、治子の終身養育費金二〇〇〇両（一両五万円として一億円）を親友永見傳三郎に託した。（片岡春卿編纂『贈五位勲四等五代友厚君傳』明治二十八年）。金額は桁が一つ多いような気がするが。

永見家は慶長年間以来の長崎銅座町の旧家で、その後唐人貿易などを行う本商人として柳川、対馬、秋月、平戸各藩などへの大名貸しを行ったり、幕末の頃は薩摩藩御用達もしていた豪商だった。友厚と傳三郎が刎頸の友と言われた所以である。明治一〇年、傳三郎は第十八国立銀行の創業者として初代頭取に就任した。

永見傳三郎

大阪の永見米吉郎

それより前慶応二年、欧州出張から帰藩した友厚は御納戸奉行格勝手方御用人席外国掛を命ぜられた。薩摩藩の外交通商運輸の大きな権限を与えられたことになる。薩摩・長崎・大坂間の藩際貿易の大坂での拠点の必要を感じた友厚は、傳三郎の弟米吉郎（二十七歳）を大坂に派遣した。私の外曾祖父である。

維新後、土佐堀川添いの大川町にあった旧吉田藩の蔵屋敷を購入した。私の外祖父省一（十八銀行監査役）や私の母の生誕地である。現在の住友ビルの東北の角部分にあたる。右の写真は明治十六年に米吉郎（四四）と省一（六）が長崎に里帰りした時に、有名な上野彦馬写真師に撮って貰った写真である。

前列左から大谷勝（五代武子藍子の生母、旧姓大谷）・永見省一・晴(後妻、五代豊子姪)
後列左慰（曾野）
大阪大川町宅　昭和４年

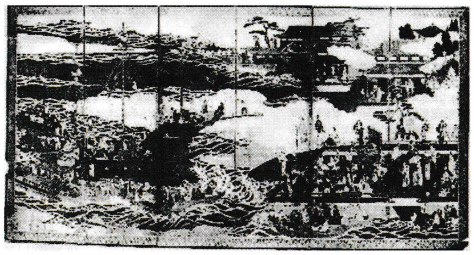
永見米吉郎と長男省一
永見英厚蔵

南蛮美術史家　永見徳太郎

本家永見徳太郎良一（私の外祖父省一の従兄の子、号夏汀）は大正から昭和時代にかけて南蛮美術品収集家、南蛮美術史家、劇作家、劇場写真家として有名である。明治三十九年長崎海星商業中学校を中退した（新名規明『永見徳太郎』長崎文献社二〇一九年）。

左から　菊池寛・芥川龍之介・
武藤長蔵・永見徳太郎
長崎徳太郎邸にて　大正８年

間もなく大阪の省一宅に宿して、大阪商業中学校（五代　友厚が開学）に入学したとのことだが、もっぱら遊芸の世界に浸り卒業はしなかったようである。卒業者名簿に名前が見当たらないらしい。私の母慰（やす）は明治四十二年生れなので、伯母や伯父たちが幼かった頃である。



永見徳太郎が所蔵していた南蛮屏風
神戸市立博物館提供

「南蛮屏風」という言葉は徳太郎が『画集　南蛮屏風』を発行（昭和二年）以来世に広まった。私は昭和四十六年から二年近く兼松リスボン駐在員事務所に駐在したが、ポルトガルでは「ナンバン・ビヨンボ」として親しまれていた。南蛮屏風は現在世界で七十双余り現存している。

徳永広子（のち「みち」）は友厚と会っていた

徳太郎が昭和二十二年十一月五日付けで長崎の古賀十二郎（長崎郷土史研究家）に宛てた書簡に次のような記述がある。

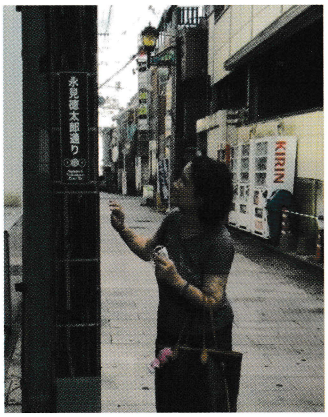
「…別の記録に五代の妾徳永みちは小生の祖につれられて大阪の永見に来りし上、五代と面会の上、大阪に居つきたるらしくその時伴こと（福栄、女役者、踊の師匠:Wikipedia 参照）も随行せし日誌を小生所有致し居候（その時大阪にて興行の筈なりしも御不例のため中止）」（大谷利彦著『続　長崎南蛮余情 -永見徳太郎の生涯』三九三頁）。

書簡の中の徳永みちとは広子のことで、祖とは徳太郎の祖母のことと思われる。永見とは米吉郎のことである。御不例は明治十八年友厚の逝去のことであろう。

みちが友厚の亡くなる数ヶ月前に大阪で会っていたとすれば、娘の松子は二十二歳であり、私は松子も同行していたのではないかと推察する。その後明治四十五年前後に松子は大阪に住んでいた（『五代塾ニュース』Vol.11 石原佳子「杉村久子日記から」）。私は、母が子供の頃に松子に会っていた、と思っている…

吉井友実（ともざね）伯爵は薩摩藩の志士時代小松帯刀、五代友厚、西郷隆盛、大久保利通などと長崎の永見傳三郎の家に出入りしていた。友実の孫吉井勇は大正昭和時代の有名な脚本家、歌人で、徳太郎（号夏汀）と親しく交流していた。（前掲大谷著）

薄い無地色のサテン帯地に母慰（やす）が刺繍した「南蛮船」
昭和３年頃娘時代作
７年に結婚してシドニーに住みパーティで愛用していた



長崎銅座町「永見徳太郎通り」の標識を見る　筆者の従妹の出来かつみさん
令和２年娘陽子さん写す

長崎の夏汀（かてい）の家の南蛮の屏風をおもふ夏のゆふぐれ

この南蛮屏風は、今はアメリカのクリーヴランド美術館に収蔵されている。

「五代様、三浦は大変幸せ者」

出来かつみ　（五代家縁戚者）

菊の花、水の入ったバケツと柄杓を提げて先日娘陽子と一緒に五代友厚・豊子夫妻のお墓詣りをしてきました。私の先祖は五代家と多少の縁があり戦後子供の頃から母や伯父たちに何回も連れてきてもらった塋域です。毎年何回か通って半世紀近くになりました。でもいつもとなんだか様子が、雰囲気が違うのです。お花や榊がたくさんお供えしてあり、次々と参拝者がある様子が伺えたのでした。有難いことです。

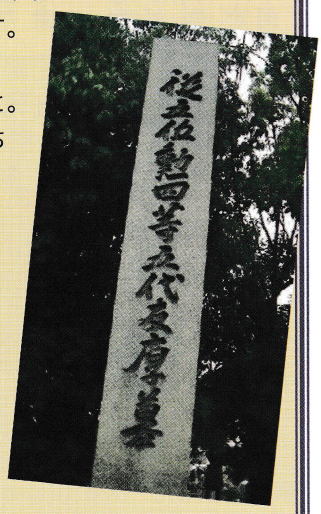
若い見知らぬご夫人から声をかけていただきました。「三浦さま」のファンクラブの方でした。なんと最近五代さまの功績をお勉強されて五代さまのファンにもなって下さったそうです。
家族旅行には薩摩、長崎にゆかれ、お子様に生の歴史を体験させたとのことです。
三浦春馬のファンは質が高いのですね。お別れ際にメッセージを頂きました。
映画「天外者」が大成功でありますように、そして世界に羽ばたいて下さい、と。

私は映画「天外者」試写会にご招待いただき、鑑賞後たいへん喜ばしい気持ちで劇場から出てきたら、大勢の観客が三浦春馬の力強い演技を称賛されていました。公開大成功間違いなしですね。沢山の方々の協力とお世話により立派な映画ができたとお聞きしております。有難うございました。

「五代様、三浦は大変幸せ者」
「春馬君、映画の成功を五代様と見守って居て下さいね」

（堺市在）

✽2020 年 11 月試写会をおえた時に寄稿して頂きました。



Topics

五代友厚映画【天外者（てんがらもん）】よもやま話

Dream 五代塾理事
川口由美子

大阪の大恩人五代友厚を映画化しようと、企画からかれこれ７年の歳月を費やし、2019年10月９日～11月４日まで京都松竹撮影所にて製作がスタートした。この題の【天外者】とは、鹿児島地方の方言で、「すざましい才能の持ち主」と映画のキャッチコピーになっている。

メガホンを取る田中光敏監督は【化粧師（けわいし）】【精霊流し】【火天の城】【利休にたずねよ】【サクラサク】等、また【海難１８９０】は日本アカデミー優秀監督賞を受賞した。

脚本はＮＨＫ大河ドラマ【花燃ゆ】【天地人】、民放の【花嫁のれん】はじめ、田中監督映画の脚本を手掛けている小松江里子氏。

五代友厚は明治の大阪経済を浮上させるため、現在の経済インフラの整備をした功績は、東の渋沢栄一、西の五代友厚として経済史を良く知る人々の間では知られているが、如何（いかん）せん現代の大阪の人々の間では知る人達は少ない。この映画によって、五代友厚の人となり、また同時代を生きた【天外者】達、坂本龍馬・伊藤博文・岩崎弥太郎という若者たちが、江戸末期から明治という激動の時代を共に、足早に生きた姿を映し出すこと、そして五代友厚が女性にも夢を持ち生きることを考えることになった女性との出会い。そして何より妻、五代豊子の生き方にも思いを馳せれるように描いている。

現代の外へ働きに行くことだけが女性のキャリアではなく、家内としての役割と、パートナーとして秘書的な役割もこなす影の立役者として、考えさせられる。

映画を見る人々が、この天外者達と共に未来の日本に向け、なにがしの想いをイメージできることと出来ればという内容だ・・・・

私は五代友厚を知るということ、そして五代友厚をたくさんの方々に認知してもらうために活動していたが、その活動も限定的であった。五代塾の初代理事長久保田彌一郎氏、二代目の小久保芳典氏、そしてその活動を理解し支援して頂いた皆様方の尽力があり、五代友厚映画プロジェクトが発足し、その活動を映画というメジャーなものを製作することで広く知って貰うことが出来るという事になった。また私自身がエキストラとして、映画製作という非日常の世界を垣間見ることが出来たことは大変嬉しく、ありがたい経験だった。

筆者・エキストラ町人役

京都松竹撮影場を中心に約１ヶ月間、その出来た膨大なフイルムを編集するのに約２ヶ月、そして2020年３月には完璧な形で映画が完成した。製作委員会の中では配役が着々と決まっていく中、周囲の皆様にこの五代役を誰が演じるのかとの問いに秘密、内緒と言って話せなかったのが、いよいよ話せる時が来た時、非常に、本当に悲しい知らせが届き一瞬息が止まった。三浦春馬君だ

彼の『日本製』という47都道府県の日本文化、伝統、歴史、産業ｅｔｃを書いた本のあとがきにこの五代役を演じることが役者冥利に尽きる、とても充実していたと書いている。本当に残念の一言しかない

この映画製作にはエキストラも延べ500人ぐらいの人々が関わり、約２時間ほどの映画が完成。撮影場所も松竹撮影所、東映撮影所、彦根、神戸など大勢のスタッフと機材を準備し、映画が出来上がっていく。本当にスタッフの殺気立ったすごい緊張感と、五代友厚役の三浦春馬、坂本龍馬役→三浦翔平、伊藤博文役→森永悠希、岩崎弥太郎役→西川貴教などの方々がそれぞれの役に入り込み明治時代のその時にタイムスリップした感じだ。

今の時代とは違う若者たちの生きるという緊張感、日本を他の国の植民地にしてはならないという想いで一人一人が命を懸けて、今の日本を作ったのだという事を、是非一人でも多くの方々に、見て頂きたい映画が完成した。これにより大阪の方々はいうに及ばず、誰に聞いても五代さんはこんな方ですよと答えられるようになって欲しいと思う。

今回の世界的なコロナ禍により、公開予定が決まらずやきもきしたが2020年12月11日からＴＯＨＯ系映画館200館を超える劇場にて全国公開された!!

悲しすぎる主人公役の死去があるが、しかしだからこそ、より一層　銀幕の春馬君がどんな五代友厚を演じているか、まるで五代が春馬君に降りてきて、日本の未来に夢を託し、三浦春馬ファンが五代友厚ファンともなり何十回もみられる方々がおられる感動の映画となった。

皆様の海のものとも山のものともわからない映画という壮大なプロジェクトに、ご協力、ご支援に心より御礼申し上げます。そしてこれからも五代友厚公の生き方が、今、現在皆様に良い影響があることを心より祈っております。

編集後記

Dream 五代塾は今年１月１日付で発足。映画「天外者」が好評中ですが、新型コロナ感染がなかなか収まらず、イベントが思うように開催できなかった点はあります。然しながら、何とか『**Dream 五代塾新聞**』を創刊発行ができました。皆様には末永くお付き合いください。

創刊にあたり今後の抱負です。一つ目は、有識者として次のお二人に顧問になって頂きました。従来から引き続き曾野豪夫氏、また、新たに『新・五代友厚伝』の著者八木孝昌氏です。より深みのある五代友厚の事績・エピソード等を紹介して頂くことを考えています。二つ目は、当新聞の発行は２か月に１回（原則偶数月）頑張って発行します。<尚、定期的なセミナー・勉強会は２か月に１回（原則奇数月）>。三つ目は、当新聞は五代友厚の事績・精神を社会に普及させるだけでなく、会員相互の友情・親睦・自己研鑽ができる場でもあります、従い、会員の皆様からの寄稿が重要な情報源となりますので宜しくご協力お願いします。

〖みんなで一緒に勉強しましょう！〗

会員募集中　詳細　Dream 五代塾 HP　https://www.dream-godai.com
事務局連絡先　携帯:080-4497-5688　Email:gogoken12345@gmail.com